

このたびはミツバ「盗難警報機(CAシリーズ)専用オプション ボイスモジュール」をお買い上げ頂きましてありがとうございます。この取付・取扱説明書は、本品の正しい使いかたや取り付けかた、使用上の注意について記載してあります。本書を最後まで必ずお読み頂き、正しく本品を取り付け、お使いください。また、本書が必要になったとき、すぐに利用出来るように大切に保管してください。

1. 安全上の注意事項

記号と意味は次のようになっております。

	警告	取り扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う可能性が想定されることを意味します。また、法律に違反することを意味します。
	注意	取り扱いを誤った場合、傷害を負う危険性が想定されることを意味します。また、物的損害が発生する恐れがあることを意味します。

ここでは、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

警告 本品は、ミツバ「ガードッグ CAシリーズ」と組み合わせて使用できます。他の目的での使用は、車の故障や思わぬ事故の原因となりますので、絶対に行わないでください。

注意

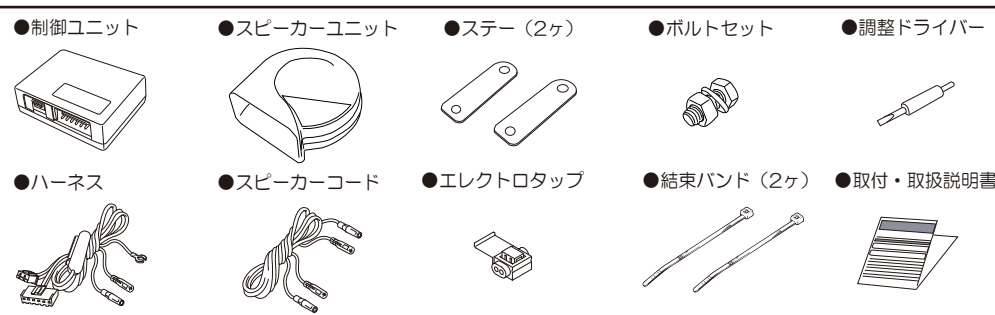
- 本品を使用中に発生した盗難や事故については、当社では一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 車のバッテリーが弱っている場合及び車本来の機能に不備がある場合は、正常に動作しないことがあります。
- 本品の分解、塗装、改造は絶対行わないでください。故障の原因となります。

2. 使用上の注意事項

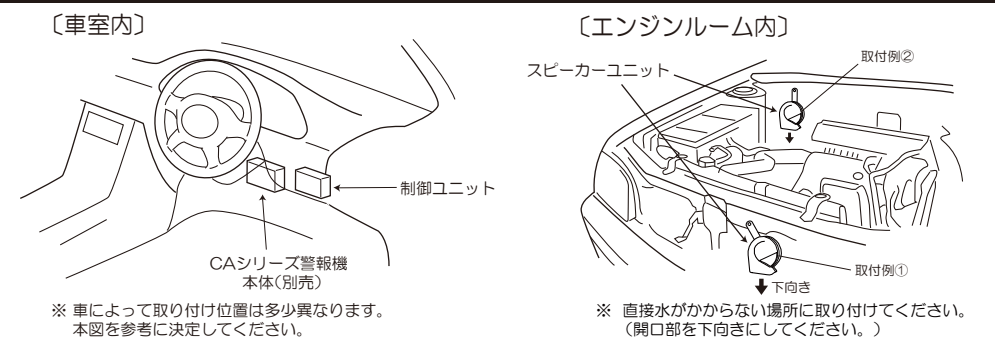
注意

- スピーカーユニットの開口部をふさがないでください。故障の原因となります。
- 本品を取り付けた場合は、3日間以上の連続動作はお止めください。バッテリー上がりの原因となります。
- 音量調整ボリュームを回す際は、付属の調整ドライバーで軽く回してください。無理に回すと故障の原因となります。

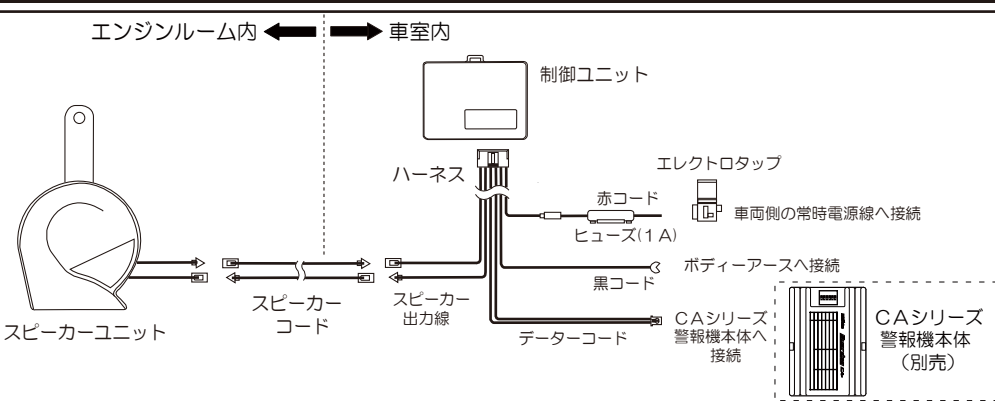
3. パッケージ内容



4. 取り付けレイアウトイメージ



5. 配線概要図



6. 取り付け方法

警告

- 本品は、運転の妨げになる場所やエアバッグの動作を妨げる場所には取り付けないでください。事故の原因となります。
- 配線したハーネスはビニールテープや結束バンド等で確実に固定してください。配線類が挟み込まれたりすると、断線やショートし、本品や車の故障、さらには車両火災の原因となります。
- ハーネス類はステアリングシャフトやペダル類の可動部付近には固定しないでください。運転操作の妨げになり事故の原因となります。
- 取り付け後、各ユニットがしっかり固定されているか必ず確認してください。固定が不十分だと脱落等により事故や故障の原因となります。

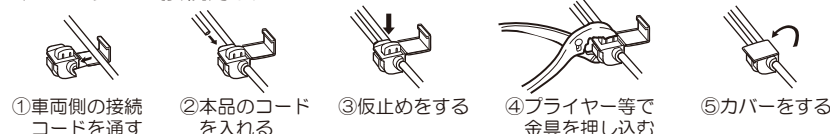
注意

- 本品の配線接続時は、バッテリーケーブルのマイナス端子を外してから作業してください。ケーブルを外さないで作業すると、配線がショートして火災・感電・故障の原因となります。外しかたについては、お近くのカーディーラーやサービスマニュアル等で外しかたを確認してください。車両搭載装置に影響する恐れがあります。
- スピーカーユニットをエンジンルーム内に取り付ける場合は、エンジンの排気装置等、極端に高温になる場所には取り付けないでください。故障の原因となります。
- 制御ユニットは防水構造ではありません。車室内の水がかからない場所に取り付けてください。火災・感電・故障の原因となります。
- 制御ユニットは無線機等、強い電波やノイズを発生する機器とは離れた場所に取り付けてください。誤動作の原因となります。
- 制御ユニットはエアコンの吹き出し口付近には取り付けないでください。高温になったり結露の恐れがあり、故障の原因となります。
- エレクトロタップによる配線の際は、エレクトロタップのフタを確実にロックしてください。エレクトロタップの金属部が車体の金属部などに接触すると、ショートして火災・故障の原因となりますのでテピングすることをお奨めします。

●取り付け工具について

ドライバー・プライヤー・ニッパ・スパナ・テスター・ビニールテープ等。工具は本品には同梱されていないので、別途ご用意ください。

●エレクトロタップの接続方法



(1) 警報機の標準サイレンを取り外します。

警報時にボイスモジュールとサイレンが同時に出力してしまいますので併用はしないでください。

メモ 2回路2接点内蔵の切り換えスイッチをご用意頂ければ、ボイスモジュールと標準サイレンの切り換えが可能です。配線方法については、「9. 標準サイレンと切り換えで使用する場合の配線方法」を参照してください。

(2) 黒コード(ボディーアース線)を接続します。

注意 塗装されている金属部分や、車の振動等で緩んでしまうような場所には取り付けないでください。動作不良の原因となります。



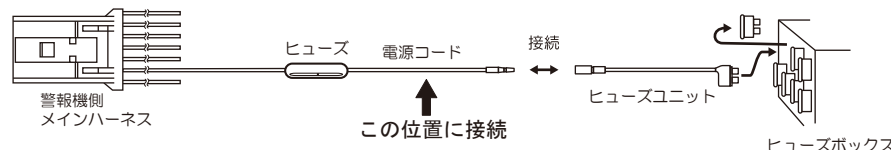
ハーネスのクワ型端子が付いている黒コードを車体の金属部分(マイナスアース)に締め付けます。

(3) 赤コード(常時電源線)を接続します。

- ① テスターを電圧計測モード(V)にします。
- ② エンジンキーを抜いた状態で、車両側の配線で常時+12Vがかかっている線をテスターで探します。
- ③ 配線先を確認したら、その線に赤コードを接続します。(付属のエレクトロタップで接続してください。)

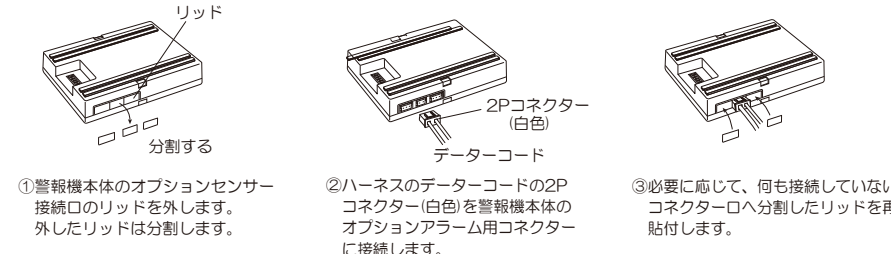
警報機の常時電源線へ接続する場合

常時電源を警報機ハーネスの常時電源線から取る場合は、ヒューズとギボシ端子の間へ接続してください。(下図参照。)



(4) 2Pコネクタ(データコード)を警報機本体へ接続します。

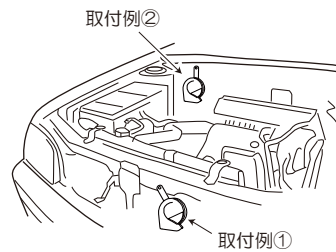
警報機本体のオプションセンサー接続口のリッドを外し、ハーネスのデータコードの2Pコネクタ(白色)を警報機本体に接続します。(リッドは両面テープで貼られています。)



(5) スピーカーユニットを車体へ取り付けます。

スピーカーユニットをフロントグリル周辺またはエンジンルーム内へ取り付けます。

- ・裏面の「スピーカーユニットの固定方法」を参考に取り付けてください。
- ・取り付けの際は、車両側の適当な取り付け穴に付属のボルトセットで固定するか、もしくは車両側のネジを利用して確実に固定してください。
- ・固定した後、ぐらつきがないかどうかを確認し、ぐらつき場合は増し締めするか取り付け場所を変更してください。



メモ 車室内へ取り付けると、車外に発する音量が極端に小さくなり警報効果が減少します。

注意

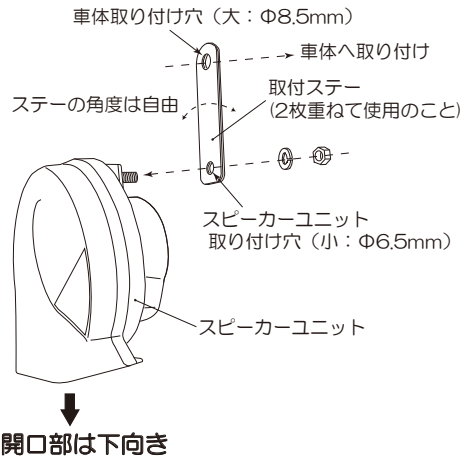
- ・ エンジンルームに取り付ける場合、エンジンの排気装置等極端に高温になる場所には取り付けないでください。また、スピーカーユニット開口部は下に向け、開口部から水が入らないように取り付けしてください。故障の原因となります。
- ・ 運転中の振動等で外れないようにしっかりと固定してください。事故の原因となります。
- ・ 車室内に取り付ける場合、運転の妨げになる場所やエアバッグの動作を妨げる場所には取り付けないでください。事故の原因となります。

スピーカーユニットの固定方法

①スピーカーユニット背面のボルトから一旦、ナットとワッシャーを外し、取付ステーを取り付けます。

注意

- 取付ステーは、必ず2枚重ねて使用してください。1枚のみで使用すると強度不足により破損する恐れがあります。
- スピーカーユニットをステーに取り付ける際は、ステーの2つの取り付け穴のうち、小さい方の穴に取り付けてください。



②車両のネジ穴等を利用して車体に確実に取り付けます。

注意

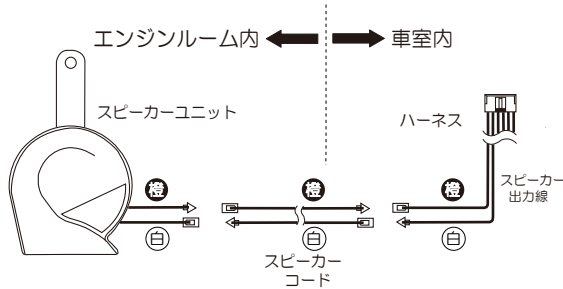
- スピーカーユニットの開口部を下に向けた状態で固定してください。
- 車両の可動部品の動作を妨げない位置に取り付けてください。

開口部は下向き

(6) スピーカーコードを使用して、スピーカーユニットとハーネスを接続します。

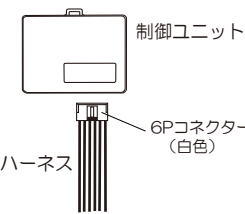
①スピーカーユニットから出ているコード(橙、白)にスピーカーコード(橙、白)を接続します。このとき、同じ色どうしのコードを接続してください。

②スピーカーコードを車室内へ引き込み、ハーネスの橙コードと白コードへそれぞれ接続します。このとき、同じ色どうしのコードを接続してください。



(7) ハーネスを制御ユニットへ接続します。

ハーネスの6Pコネクタ(白色)を制御ユニットへ接続します。



(8) 制御ユニットを固定します。

制御ユニットをインストルメントパネルのアンダーカバー内またはセンターコンソール内側等に取り付けてください。制御ユニットの固定は、走行時などに動かないように付属の結束バンドあるいは市販の両面テープを使ってしっかりと固定してください。

メモ 制御ユニットの取り付け位置は、ディップスイッチや音量ボリュームの設定が行えて、かつ他人の目の付きにくい目立たない場所を選んでください。

注意 エアコンの吹き出し口付近には取り付けないでください。高温になったり結露の恐れがあり、本品の故障の原因となります。

(9) 配線したハーネス及びスピーカーコードを整理します。

これまでに配線したハーネス及びスピーカーコードをビニールテープ等で確実に固定してください。

注意

- 配線類が挟み込まれたりすると、断線やショートし、本品や車の故障、さらには車両火災の原因となります。
- ステアリングシャフトやペダル類の可動部付近には固定しないでください。運転操作の妨げになり、事故の原因となります。

(10) 「設定内容確認表」へ接続状態について記入してください。

警報機本体の「取付・取扱説明書」の「設定内容確認表」へ接続状態を記入してください。万一、不具合が発生した場合にお問い合わせ頂く際に必要となります。

7. 動作確認

(1) 全ての窓を閉め、全てのドアを閉めます。

(2) 警報機をセットします。
リモコンで警報機をセットしてください。

(3) 警報機本体の動作に連動して本品が鳴ることを確認します。

(4) ディップスイッチの設定及び音量調整を行います。
「8. 各種設定方法」を参考に設定してください。

<< 保証規定 >>

保証範囲や条件など詳しい内容についてご説明します。必ずお読みください。

お買い上げ頂きました本品は、当社の厳しい品質管理のもとで製造されたものです。万一、製造上の不具合がありました場合には、この保証書に示す条件にしたがって無償で修理させていただきます。

修理は、お買い上げ店に保証書・不具合内容を提示の上、ご依頼ください。

- この保証書は保証期間が満了したときに効力を失うものとします。また保証期間内であっても本品が日本国外に持ち出された時にも効力を失うものとします。(This warranty is valid only in Japan.)
- この保証書は破損または紛失した場合でも再発行は致しませんので大切に保管してください。

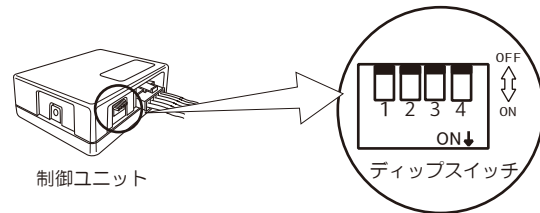
次に該当する場合は、保証期間内であっても無償修理の対象となりませんので、ご注意ください。

- 本品を分解・改造した形跡が認められた場合。
- お客様の故意、または過失による故障と認められた場合。
- 地震・台風・水害などの天災ならびに火災・事故・その他紛争などによる損傷が認められた場合。
- 取扱説明書に記載されている諸事項が守られなかった為に不具合が発生した場合。
- 保証書の提示がないか、あるいは記載事項に不足がある場合。
- 販売店様の押印またはレシートが無い場合。

8. 各種設定方法

ディップスイッチの機能と設定方法

制御ユニットのディップスイッチの設定により、以下のモード選択が出来ます。



CH No.	内容	OFF	ON
1	音声切り換え	日本語(男性)	英語(男性)
2	警報音ON/OFF	警報音なし	警報音あり
3	警報音の切り換え	アルファII	サイレン
4	使用しません。		

メモ 「CH2(警報音ON/OFF)」をONにした場合、警報時は「音声+警報音」の繰り返しにて警報します。(ただし、警報時間が5秒以上の警報の場合。)
・警報音のみによる警報は設定出来ません。

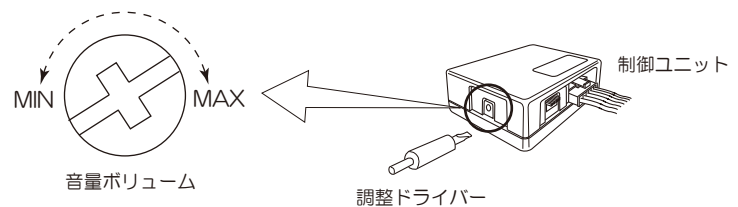
収録音声一覧

本品に収録されている音声は以下の通りです。

	日本語(男性)	英語(男性)
警戒ON (通常時)	ノーマルステージで警戒開始します。	Security system stand by on normal stage.
	誤動作軽減ステージで警戒開始します。	On "GODOUSAKEIGEN" stage.
	ドアスイッチステージで警戒開始します	On door switch stage.
警戒ON (半ドア検知時)	半ドアを検知しました。ノーマルステージで警戒開始します。	Check doors. Security system stand by on normal stage.
	誤動作軽減ステージで警戒開始します。	On "GODOUSAKEIGEN" stage.
	ドアスイッチステージで警戒開始します。	On door switch stage.
警戒OFF (通常時)	警戒解除します。	Security system stopped.
警戒OFF (警報中に警報があった場合)	警戒解除します。警戒中に警戒ランクSに達しました。	Security system stopped. Check the car.
	警戒解除します。警戒中に警戒ランクAに達しました。	
	警戒解除します。警戒中に警戒ランクBに達しました。	
警報	警戒ランクS 非常事態発令!	Emergency!
	警戒ランクA 警告します!	Warning!
	警戒ランクB 注意してください。	Attention.
	半ドア警告 半ドアを検知しました。	Check doors.
リモコン登録	乗り逃げ防止 非常事態発令!	Emergency!
	登録モード切り替わり時	リモコン登録モードに切り替わりました。
	IDコード受け付け時	IDコードを登録しました。
登録モード終了時	リモコン登録を終了します。	

音量調整方法

制御ユニットの音量ボリュームを回すことで音量調整が可能です。なお、音量ボリュームを回す際は、付属の調整ドライバーを使用してください。



注意 調整する際には、必ず付属の調整ドライバーを使用し、力を入れなくて軽く回してください。無理に回すと故障の原因となります。

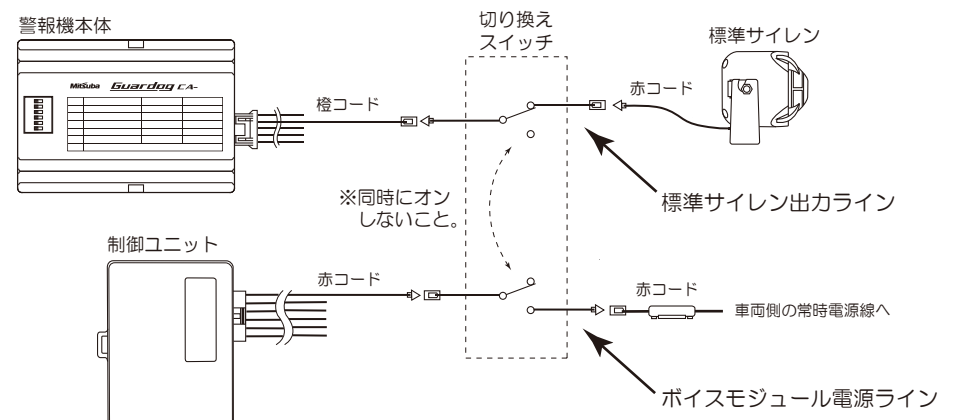
9. 標準サイレンと切り換えて使用する場合の配線方法

別途、スイッチをご用意して頂くことで警報機付属の標準サイレンとボイスモジュールの切り換えが可能です。

メモ 切り換えスイッチは、下記条件を満足するものを用意してください。
・2回路2接点内蔵タイプ 1ヶもしくは1回路タイプ 2ヶ
・接点容量 DC12V 2A以上
さらに必要に応じて、リード線やギボシ端子を用意してください。

下図を参考に配線を行ってください。

標準サイレンの出カラインとボイスモジュールの電源ラインそれぞれにスイッチを取り付けます。



警告 各接続箇所は接触不良のないよう注意してください。動作不良の原因となります。また、接続部は必ず絶縁処理を行ってください。接続部がショートすると、本品や車の故障、さらには車両火災の原因となります。